

中国家族の市場化

晨光

1. はじめに

近年、中国社会の急激かつ急速な変化によりこれまで行われた多くの研究が古くなったという感じがする。そしてこのなかでもっとも眼を見張る変化は社会の基礎集団である家族の変化、つまり「家族の市場化」である。

市場化とは、市場交換の原則が一般化して社会のあらゆる領域に浸透することを指す。市場化された社会の場合、人々は自分の行為およびその結果について損得を計算し、あらゆる他人との相互行為について市場基準をもって測定することになる。

市場化の中心内容は「交換」である。経済学でいう「市場交換」は、互いに利益をもたらす「互酬的等価交換」である。社会学も、人々のもつ社会資源が代表する「社会財」を経済学と同じ意味で交換することを社会相互行為の中心だと考えている。また両者ともこれらの交換行為に「パレート最適」が適用すると主張する。

人類社会では、もともと共同体としての家族と外部環境としての市場が共に存在し、それぞれ自分の役割を果たしていた。テンニェスの概念を借りれば、共同体における人間関係原則はゲマインシャフトで、市場における交換行為の性質はゲゼルシャフトである。しかし、経済の発展によって社会経済共同体としての家族は基礎集団と機能集団とに分裂した。機能集団としての企業は市場原理にしたがって活動し、基礎集団としての家族との間に労働力と賃金の交換、消費財と代金の交換、貯金と利息の交換を行うようになった。これはすなわち市場原理の一般化で、次第に市場が家族のような共同体のなかにも入り込み、それを市場化させてしまうという現象が現れた。

現在われわれの社会では、もともと他人関係の男女 2人は結婚によって生殖家族をつくり、子供の出生によって子供の定位家族をつくりあげる。その後、自分たちは年をとり、子供に介護をしてもらい、世代間責任を果たしてもらおう。さらに普段の生活のなかであらゆる家族は家事労働を行い、家族の正常な生活を維持している。しかし、近代産業社会では、市場機能の拡大によって、これらの 4つの側面において市場化の波が押し寄せている。これからこの 4つの側面から中国家族の市場化について考えてみたい。

2. 婚姻行為の市場化

婚姻行為は家族成立の基本条件である。男女 2人の結婚がなければ、生殖家族

が生まれにくい。よく結婚が愛情に基づくものだと期待されているが、実は、婚姻行為の市場化は昔からあったものである。売買婚姻はいうまでもなく、普通の婚姻も市場交換の要因を含む。たとえば、家柄によって結婚相手を決めることがある。人類歴史上多くの社会において同じ社会階層に属する男女が結婚するという傾向がある。文化人類学者のレヴィーストローは「結婚とは、女性の交換である」といって、婚姻行為の市場性を指摘した。

現代社会の婚姻行為は未開社会のものとは異なるが、市場化の程度が進んでいる。1960年代にアメリカで経済学者のシュルツ（T. W. Schultz）、ベッカー（G. S. Becker）らは、人的資本理論（theory of human capital）を提出して、社会の市場化を説明する。この理論を婚姻行為に適用することができる。すなわち人々は各種の教育、訓練により自分自身の価値を高め、より社会評価の高い職業につき、さらに収入が増加すれば、高学歴、高収入を人的資本として相手に対しても同じことを要求することができる。

さらに現代でも人々は、結婚のコストと結婚の効用などを考えて結婚する。結婚のコストは交際の費用、結婚式の費用などを含む。交際している男女は、ときには長い年月を経て、やっと結婚を決める。そして多くの親族を呼んで盛大な結婚式を行う。これにはもちろん費用がともなう。費用（コスト）をかかればかかるほど、この婚姻が安全であると考えられている。すなわちコストの高い結婚は破局したとき、双方にとって損失も大きい。また多くの関係者を呼んで行われた結婚式なので、金銭面だけではない、社会的な評価に関しても損失が大きい。

昔の中国人にとって婚姻は夫婦の愛情というよりも、一族のため、親のため、子孫を残すためのものであり共同体の主原則に基づいていた。それゆえ、親は子供のために嫁を買うという市場行為が行われた。しかし、近年中国社会では、結婚の年代が遅くなればなるほど、結婚のコストがますます高くなっているという調査結果がある〔李銀河 2002:124；徐・叶 2002:17〕。すなわち、現在中国社会では、結婚を市場行為として考える人が増えている。ただし、これは伝統社会の売買婚姻とまったく異なる市場性をもつ。婚姻当事者たちにとって婚姻行為は単純な金銭関係ではなく、自身の人的資本を量って等価交換を行うことある。実は、革命理論家のマルクスでさえも自分の娘婿を選ぶとき、相手の経済状況を重視した。共同生活基盤をつくるためには、結婚する男女間の経済的なバランスがいつの時代でも重要である。

さらに婚姻行為について次のような経済的な説明ができる。婚姻の効用は相互理解と相互依存から成り立つといわれている。相互理解は時間を経るにしたがって、相手を知悉してしまい、興奮は冷めていき、またセックスの限界効用も下がっていく。つまり相互理解の効用は逡減していく。相互依存は、時を経て相手を

知ることにより効率性と信頼性が高まっていく。つまり相互依存の限界効用は増していく。効用を考えて婚姻行為を行うのは明らかに市場化の傾向である。

3. 養育行為の市場化

家族の重要な機能は人口の再生産である。とくに中国の伝統社会においてこれは何よりも重要なことで、家族の法（宗法）は女性の生育機能を決め、強制的にさせるまで制度化されていた。1970年代から中国政府は人口制限をするために行政から「一人っ子政策」を設定し、強制的に遂行した。現在、都市部では、ほぼ100%家族は一人っ子になっているが、しかし、農村では、なかなかこの効果が表れない。これはすなわち都市部では家族の市場化、養育行為の市場化が進んでいると説明することができる。

開発経済学は、次のように世帯規模を考えている。つまり、両親にとって子供をもうける場合、その効用の要素が3つほどある。まず、消費効用 (consumption utility)、すなわち、子供を消費財として考えると、手に入れたという両親の充足感である。第二は、所得効用 (income utility)、子供が成長した後、家の仕事を助けたり、経済上の所得をもってくるということである。第三は安全保障効用 (security utility)、自分達が年をとった後に、子女は彼らの面倒をみるという期待である。

しかし、子供をもうけることは、効用だけではなく、費用の要素もある。これは主に2種類ある。1つは直接的費用、これは主に子供を扶養するための生活費や子供のために支払う教育費などを指す。もう1つは間接的費用、これは子供を養育するため、両親、とくに母親が就業機会を喪失することを指す。

結婚して家庭を築きあげたばかりのときに子供の誕生が親にもたらす効用は大きく、不効用は小さい。しかし子供の増加によって効用は減り、不効用は増大する。

ある家庭で何人の子供を出産するかを考えると、子供を新たにもうけることの効用ならびに費用を比較して、どの効果が大きいかを考慮して決定するのである。世帯規模に影響する要因を効用と費用の総合効果から考えることは市場化の象徴である。

現在、中国人、とくに都市の若者は、子供を産む効用と費用を計算し子供を産むかどうかを考えている。すなわち子供を産み、育てることについてもそのコストを考えるようになった。人口制限の成果がでたと説明することができる。

そして市場経済の発展によって中国の家族は、子供を出産する費用、教育する費用、養育するために親が犠牲するものを総合的に考える家族が増えている。これらの家族はDINKS (double income no kids) 家庭と呼ばれている。それは、

共稼ぎの若い夫婦が子供をもたず、2人だけで楽しくすごす近代的な家族である。1980年代に中国の4大都市（北京、上海、天津、広州）ではすでに60万人のDINKS人口がある〔劉 2002:5〕。現在、このような家族は中国の都市部でだんだん増えている。とくに高学歴、高収入の夫婦はこのような家族をつくる傾向がある。伝統的な考え方を捨てたDINKSたちは、未来の子供に支払うよりも現在の自分の人生を楽しむために支出するほうがよいと考えているからである。これは明らかに市場化の考え方であろう。

4. 介護行為の市場化

次は老人に対する介護行為の市場化を考えてみよう。これは養育行為の市場化と関係している。次の世代に対して市場的な考え方をもつということは、上の世代に対しても同じような考え方をもっていることを意味する。

長い歴史において、中国人は親の立場から子供との交換関係を考えていた。いわゆる「養児防老」（老後の不幸を防ぐために子供を養育する）の思想である。彼らは子供に対し、伝統的な倫理道徳にしたがい親孝行を重視すべきと要求する。社会的にも親が年をとると、子供が親の面倒をみる責任があると認識している。現代社会において親孝行と介護は密接につながりある。しかし、中国社会において昔の介護と現代の介護は異なり、いろいろな変化が起こっている。養育行為が市場化になっているのと同様に、介護行為も市場化傾向がある。

現在中国社会でも老人家庭が増えている。中国語では「空巢家庭」という。すなわち、老人だけの家庭は、幼鳥たちが巣立ちした後の空っぽの巣のような家庭であるという意味である。1995年の時点で、中国全国の「空巢家庭」は老人のいる家族の15%を占めている。北京、上海、天津などの大都市、また浙江省、江蘇省などの経済発展の速い地域では、その比率はすでに30%を超えている〔穆光中 2002:60-61〕。

なぜ子供たちは親元から離れて独立するようになったか。まず、経済発展によって住居条件がよくなったという理由がある。核家族化になった社会では、個人の自立意識が強くなり、親と同居しようとは思わなくなる。もう1つの理由は、福祉国家の出現によって社会福祉施設が充実され、家で面倒をみなくても、老人ホームに託すことが可能になった。家族内で放棄された介護の機能に対して政府や福祉団体は家事援助（house work services）を行うようになる。

子供たちは親のために資金をだして社会福祉施設を利用させる。彼らは次のように考える。親孝行はすべきであるが、自分たちは仕事が忙しく、また自分たちの家族もある。現在、資金さえだせば、年寄りの面倒をみってくれる人を雇うことができる。これも新時代の親孝行である。これはいうまでもなく明らかに市場化

の介護行為である。

最近、年寄りの間に「契約家族」が現れた。「契約家族」とは配偶者が死別した年寄同士が正式な婚姻ではなく、財産分与のない契約を結び、互いに助け合う意味で共に住む家庭のことである。このような家族ができるのは、介護行為の市場化と関係している。子供たちからみれば、親が老後になって再婚すると、これまで築いた家族の財産が分散してしまう可能性が生じるので、それを防止するために親に法的な結婚ではなく法的効力の無い契約結婚を勧める。これは子供たちの都合で市場化された介護行為である。

これに対して、将来の自分のために介護の準備をする動きもある。上海などの大都市では、「時間銀行」というシステムが現れた。これは自分が若いときや健康なときに、地域の年寄りの世話をすると、その時間が記録され自分が老人になった時、同等時間の介護を受ける権利があるという制度である [穆光中 2002:159-162]。将来の自分の介護に関して自立したい人は、健康なときに地域の年寄りの介護ボランティアに参加し、掃除、洗濯、買物、調理などの一般的家事の援助をすると、将来自分の介護の貯金となる。介護行為の市場化は年寄りを取りまく経済社会環境とともに進んでいる。

5. 家事労働の市場化

最後は家事労働の市場化を考えてみよう。家事労働は家族生活に必要な基本活動で、家族成員の世話（育児・看護・介護等）を含み、報酬をともしないのが普通である。その理由は、生産労働に対置され、専業主婦は家事や育児・介護等から金銭的報酬を受けとるわけではなく、家事労働の専従者として位置づけられることになる。

しかし、近年、家事労働価値説 (household labor theory of value) が提出された。これは家事労働における労働力支出を正当に評価すべきであるという理論である。たとえば、専業主婦は夫が仕事にでたあと、炊事、洗濯、掃除、育児など家事労働に従事しても、こうした労働を社会的労働に還元して一定の評価をすべきである。世界の各国も家事労働への「不払」を問題にする動きはあって、今日では、家事労働はもとよりインフォーマルセクター（主に女性が担っている）の労働すべてを国民経済計算に組み入れ、これらの労働を目にみえるものにするのが国際的動向になりつつある。

中国でも近年、電気具・ガス器具、自動車、既製衣料品、加工・半加工食品などの普及が著しく、これによって炊事、買物、洗濯、掃除などといった家事労働にも合理化が現れている。しかしそれより、社会的に主婦業の社会地位が高くなり、家事労働を金銭で計るようになった。中国の婦人たちは自分を解放するため

に家政婦を雇って家事をさせることを選択する。家事労働の社会化はすなわち家事労働の市場化である。すなわち、現在の家事労働の価値はすべて計算可能になっている。もちろんここでの計算可能は市場価値の意味でのものである。

家事労働市場化のもっとも重要な意味は家事労働における労働力支出を正当に評価することだけではなく、婦人たちの社会地位の向上を現している。

世界中でもっとも家族を重視する民族が中国人といわれているが、家族形態が変われば、中国人にとって重視する対象も変化し、中国社会は徹底的に変わっていくといえる。この意味で家族の市場化は経済の市場化と同等の大きな意味合いがある。

現在、中国家族の変化はほとんどの都市部で起こっている。都市部の家族は近代化の尖兵になっている。これから数十年の間、中国全国の範囲で伝統的家父長家族から近代的夫婦平等家族へ、大家族から核家族へ、単一家族から多様家族へと一連の変動が起こるだろう。したがって、家族内部では夫婦の平等、子供の人権が実現され、社会的には平等、人権などの意識も培われるはずである。家族のなかでこれらの意識を育てることになれば、社会も進歩する。

紙幅の関係上、中国社会の変動にともなう家族の市場化に限定して浅い論旨を展開したが、これから家族について新しい社会学的な研究をする必要性が増えている。中国社会は変化し、新しい社会になっている。これはよいことかどうかはさておき、社会現実である。

<<参考文献>>

G. S. Becker

1993 *Treatise on the Family*, Harvard University Press

李銀河

2002『中国人的性愛与婚姻』中国友誼出版公司

徐安王其・叶文振

2002『中国婚姻研究報告』中国社会科学出版社

劉倩

2002『叛逆与追求・丁克家庭』河北人民出版社

穆光中

2002『挑戰孤独・空巢家庭』河北人民出版社

中国の家族に関する図書文献リスト

1949

清水盛光『中国族産制度考』岩波書店

牧野巽『近世中国宗族研究』日光書院

1950

飯塚朗・千田九一『中國の家庭と子供』東京書籍

1951

内田智雄『中國農村家族における分家事由の一考察』同志社法学会

1952

仁井田陞『中國の農村家族』東京大學出版會，

1953

オルガ・ラング（小川修訳）『中國の家族と社會』同志社法学会

1968

守屋美都雄『中國古代の家族と國家』東洋史研究會

1970

内田智雄『中国農村の家族と信仰』清水弘文堂書房

1975

滋賀秀三『中国家族法の原理』創文社

1979.10-1980.5

牧野巽『中国家族研究』（上，下）御茶の水書房

1985

費孝通（横山廣子訳）『生育制度：中国の家族と社会』東京大学出版会

1987

M. フリードマン（田村克己・瀬川昌久訳）『中国の宗族と社会』弘文堂

1988

日本青少年研究所編『婦人の就労と家族調査：日本・中国』日本青少年研究所

1989

中岡義介＋ファミリー『六人家族の中国ノート：長沙で知った庶民の生活』学芸出版社

谷田孝之『中國古代家族制度論考』東海大学出版会

1990

兵庫県家庭問題研究所編『中国の家族関係との比較研究報告書』兵庫県家庭問題研究所

1991

秋山洋子編訳『中国女性：家・仕事・性』東方書店

嚴汝嫻主編（百田弥栄子ほか訳）『婚姻からみた中国少数民族』六興出版

陳明俠著（黒木三郎監修，西村幸次郎・塩谷弘康訳）『中国の家族法』敬文堂

M. フリードマン（末成道男・西澤治彦・小熊誠訳）『東南中国の宗族組織』弘文堂

1992

聶莉莉『劉堡：中国東北地方の宗族とその変容』東京大学出版会

1993

柳田節子先生古稀記念論集編集委員会編『中国の伝統社会と家族』汲古書院

1994

潘允康（園田茂人監訳）『変貌する中国の家族：血統社会の人間関係』岩波書店

兵庫県長寿社会研究機構家庭問題研究所『中国・韓国・タイと日本の夫婦・家族関係に関する比較研究報告書：北京・大邱とその周辺地域・バンコク・神戸における調査より』兵庫県長寿社会研究機構家庭問題研究所

中国社会科学院社会学研究所婚姻家庭研究室・アジア女性交流研究フォーラム編『現代中国における都市家族の意識と生活に関する研究：北京調査及びバンコク・ソウル・福岡との比較』アジア女性交流研究フォーラム

1996

嚴汝嫻主編（百田弥栄子ほか訳）『中国少数民族の婚姻と家族』（上，下）第一書房

1999

鍾家新『中国民衆の欲望のゆくえ：消費の動態と家族の変動』新曜社

張萍『中国の結婚問題』新評論

朴紅・坂下明彦『中国東北における家族経営の再生と農村組織化』御茶の水書房

三谷孝編『中国農村変革と家族・村落・国家：華北農村調査の記録』（1，2）汲古書院

2000

蕭紅燕『中国四川農村の家族と婚姻：長江上流域の文化人類学的研究』慶友社

2001

佐々木衛・方鎮珠編『中国朝鮮族の移住・家族・エスニシティ』東方書店

成清弘和『日本古代の家族・親族：中国との比較を中心として』岩田書院

2002

アジア遊学編集部編『アジア遊学 変容するジェンダー：中国の女性たち』43，勉誠出版

2004

石原邦雄編『現代中国家族の変容と適応戦略』ナカニシヤ出版

関西中国女性史研究会編『ジェンダーからみた中国の家と女』東方書店

瀬川昌久『中国社会の人類学：親族・家族からの展望』世界思想社

佐藤康行・清水浩昭・木佐木哲朗編『変貌する東アジアの家族』早稲田大学出版部

2005

何燕俠『現代中国の法とジェンダー：女性の特別保護を問う』尚学社

中国の家族に関する報告書および論文文献リスト

1948

内山完造「中国の育児法」 / 「新しい教室」 3(10) [1948.10]

1949

守屋美都雄「内田智雄著『中国農村の家族と信仰』」 / 民族學研究. 13(4) [1949.06]

鶴見和子「つくられた『親子関係』 : 中国の紡績工場の寄宿舎生活」 / 婦人公論. 35(7)
(通号 386) [1949.07]

内田智雄「中國農村に於ける結婚と世代の問題」 / 同志社法学会. [1949.6]-[1949.9]上;下

1950

内藤莞爾「中国家族の世代について : その問題と測定」 / 社会学評論. 1(2) [1950.09]

1951

内田智雄「中國農村家族における分家事由の一考察」 / 同志社法学会. [1951.3]

松本雅明「中国古代の婚姻定齡思想」 / 民族學研究. 16(2) [1951.11]

1952

斎藤秋男「新しい中国の婦人・恋愛・家庭」 / 家庭科教育. 26(11) [1952.11]

1953

胡志濤「中国一家庭主婦の報告」 / 中国事情. (通号 38) [1953]

春日静子ほか「新中国の職場・結婚・家庭(座談会)」 / 婦人公論. 39(8) (通号 435)
[1953.07]

1954

鍛冶良堅「中国婚姻法における離婚の自由」 / 法律論叢. 28(1) [1954.07]

1955

エンディコット M・A「新中国の恋愛・結婚家庭」 / 婦人公論. 40(4) (通号 456)
[1955.04]

大塚勝美「中国革命と離婚法」 / 法律時報. 27(7) [1955.07]

1956

「中国における主婦と家事労働」 アジア経済旬報. (通号 296) [1956.07]

1958

門田昌子「中国における婚姻問題の推移」 / アジア経済旬報. (通号 369) [1958.07]

1959

仁井田陞「中国新婚姻法の基本問題」 / 比較法研究. (通号 18) [1959.04]

荻山虎雄「新中国における離婚裁判の実態」 / 自由と正義. 10(12) [1959.12]

1962

ヘイ沐（大塚勝美訳）「新中国婚姻・家族関係10年の発展」 / 北九州大学商学部紀要.
（通号 10） [1962.08]

1967

大塚勝美「中国婚姻家族法の変革：とくに婚姻法貫徹運動を中心として」 / 商経論集. 1
（3・4） [1967.01]

大塚勝美「中国身分法における親族の概念」 / 商経論集. 2(3) [1967.04]

1968

大塚勝美「中国婚姻家族法における婚姻の効果-1-」 / 商経論集. 3(2) [1968.01]

大塚勝美「中国婚姻家族法における親族」 / 法社会学.（通号 20） [1968.03]

大塚勝美「旧中国社会における家族の構造 [-1-親族について]」 / 商経論集. 4(1・2)
[1968.11]

1970

石川静文「中国における婚姻制度の変化と婦人の地位」 / 名城商学. 19(別冊・人文科学特集)
[1970.01]

中国婦人研究会「変革する中国の家庭：プロレタリア文化大革命と家庭の革命化」 / 中国研
究月報.（通号 273） [1970.11]

1974

駒林麻理子「中国の婚姻法と婦人解放」 / 東海大学紀要. 教養学部.（通号 5） [1974.06]

1976

渡辺欣雄「中国東南部の親族組織概報」 / 社会科学ジャーナル.（通号 14） [1976.01]

1978

谷田孝之「中国古代婚姻と親族組織に関する総合的考察：特に今文九族説的親族組織の形成
過程」 / 日本中国学会報.（通号 30） [1978]

森山豊「中国における母子保健と家族計画指導」（産婦人科と東洋医学〈特集〉） / 産婦人科
の世界. 30(9) [1978.09]

1980

久留都茂子・山本清子「中国の離婚と調停」(世界の家族法はいま-6-) / 判例タイムズ. 31(25)
[1980.11.15]

1985

松戸庸子「現代中国家族の動向：一国営工場の従業員家族調査を中心として」 / 現代社会
学.（通号 19） [1985]

大塚勝美・加藤美穂子「中国家族法論」 / 中国研究月報.（通号 449） [1985.07]

1986

- 加藤寿延「一人っ子政策の背景：中国」（人口政策にみるお国事情：子供を生め，子供をつくるな，国によっては事情はさまざま<特集>） / 地理. 31(2) [1986.02]
- 田島淳子「中国の離婚状況：都市を中心に」 / 中国研究月報. (通号 457) [1986.03]
- 袁緝輝報告（田辺義明訳解説）「中国における老人の扶養問題について：第13回国際老年学会より」 / 中国研究月報. (通号 462) [1986.08]
- 井出元「中国古代における家族倫理：家の観念と構造と孝の思想」 / 麗沢大学紀要. (通号 43) [1986.12]

1987

- 松戸庸子「現代中国家族変動研究序説」 / アジア研究. 33(3・4) [1987.03]
- 前山加奈子・草野篤子「現代中国における都市家族の離婚」 / 家庭科学. 54(3) [1987.12]

1988

- 日本青少年研究所編「婦人の就労と家族調査：日本・中国」 / 日本青少年研究所, 1988.3
- 新保敦子「現代中国の家族問題：家族の教育力の低下をめぐる」（現代家族と社会教育）（現代家族機能の再構築のための諸課題） / 日本の社会教育. (通号 32) [1988.10]
- 潘允康・林南（園田茂人訳解説）「現代中国における都市家族の形態：天津市第3次家庭調査の事例から」（「社会学研究」1987年第3期） / 中国研究月報. (通号 489) [1988.11]
- 陳明侠「中国の家族制度と新たな家族法の変化」 / 中国研究月報. (通号 490) [1988.12]

1989

- 張琢（園田茂人訳）「中国の家族と宗族に関する諸問題」 / 思想. (通号 783) [1989.09]
- 陳其南（小熊誠訳）「房と伝統的中国家族制度：西洋人類学における中国家族研究の再検討-2-」 / 沖縄国際大学文学部紀要 社会学科篇. 16(1) [1989.10]

1990

- 加藤美穂子「中国婚姻法における今日的課題の一つ『違法婚姻』」 / 法学新報. 97(1・2) [1990.10]

1991

- 李小慧「中国における親族構造：特に宗族について」 / 甲南女子大学研究紀要. (通号 別冊) [1991]
- 中沢次郎「中国のひとりっ子問題」（ひとりっ子の心理としつけ<特集>） / 児童心理. 45(1) [1991.01]
- 国谷知史「中国婚姻法の構造に関する試論」 / 中国研究月報. (通号 520) [1991.06]
- 杉沢秀博・中谷陽明・冷水豊「中国上海市における在宅要介護老人と家族介護者の援助態勢に関する研究」 / 日本公衆衛生雑誌. 38(8) [1991.08]
- 聶莉莉「経済体制改革以後の農村家族の夫婦関係：中国東北地方での実地調査に基づいて」（中国：安定と成長の条件<特集>） / 海外事情. 39(11) [1991.11]

1992

- 新保敦子「中国における独りっ子政策と家族の教育的機能の変容」/ 学術研究. 教育・社会教育・体育学編. (通号 41) [1992]
- 趙莉萍「中国家族呼称の語構成とその背景：宗族と社会構造を中心に」/ 阪南論集. 人文・自然科学編. 27(3) [1992.01]
- 劉振英「中国家族政策研究の課題」/ 立命館産業社会論集. (通号 71) [1992.03]

1993

- 小島泰雄「通婚圏と配偶者選択：中国農村における婚姻の空間研究の前提」/ 神戸市外国語大学外国学研究所研究年報. (通号 31) [1993]
- 劉振英「中国における家族政策の展開と家族生活の推移-2-」/ 立命館産業社会論集. (通号 75) [1993.03]
- 吳存浩 (佐々木交賢監修, 王新潮訳) 「中国の壮族の婚姻習俗」/ Sociologica. 18(1) [1993.06]
- Donald T. Rowland「中国における国内移住家族の特徴」(アジア太平洋人口ジャーナル, Vol. 7, No. 1, 1992年3月) / 日本エスカップ協会調査資料. 19(2) [1993.10]

1994

- 中国社会科学院社会学研究所婚姻家庭研究室・アジア女性交流研究フォーラム編「現代中国における都市家族の意識と生活に関する研究：北京調査及びバンコク・ソウル・福岡との比較：共同研究」/ アジア女性交流研究フォーラム
- 湯山トミ子「現代中国の家族論：費孝通のフィードバック論とその関連モデルをめぐって」/ 愛媛大学教養部紀要. 27(3) [1994]
- 兵庫県長寿社会研究機構家庭問題研究所「中国・韓国・タイと日本の夫婦・家族関係に関する比較研究報告書：北京・大邱とその周辺地域・バンコク・神戸における調査より」/ 兵庫県長寿社会研究機構家庭問題研究所, 1994.3
- 宋建華「中国の親族制度, 家族観と一人っ子政策」(世界の家族：国際家族年にちなんで〈特集〉) / 教育と医学. 42(7) [1994.07]

1995

- 鈴木賢「中国における高齢者扶養と介護の法的動向」/ ケース研究. (通号 242) [1995]
- 水野蓉「中国における都市住民食生活行動様式に関する研究〔2〕：家庭の食事と夫婦の役割分担」/ 日本大学農獣医学部一般教養研究紀要. (通号 31) [1995]
- 聶莉莉「中国の大都市における婚姻と家族」(家族はどこへ行くのか〈特集〉)：(世界の家族) / 教育と医学. 43(1) [1995.01]
- 佐竹靖彦「宋代の家族と宗族：宋代の家族と社会に関する研究の進展のために」/ 人文学報. (通号 257) [1995.03]
- 鈴木満男「9世同居：中国浙江省の或る儒家家族の歴史」/ 思想. (通号 849) [1995.03]

高橋強「改革開放下における中国の家族政策：特に婦女の権利・利益保護を中心として」/
[八王子]：創価大学アジア研究所，1995.3（創価大学アジア研究所叢刊；第4輯）

李力・田村毅・深谷和子「一人っ子社会での子どもの成長：中国上海市での子どもと家族の
関わり」/ 東京学芸大学紀要. 第1部門，教育科学.（通号 46）[1995.03]

若林敬子「中国における人口問題と女性：家族・宗族論からの接近」/ 人口問題研究.（通
号 214）[1995.04]

王向華「中国人婚姻の特質」/ 民族學研究. 60(2) [1995.09]

鈴木賢「中国家族法の概要と家族の現況」/ 家庭裁判月報. 47(11) [1995.11]

1996

祝ア「中国における‘事実婚姻’・‘非婚生子女’と日本における‘内縁’・‘非嫡出子’
との比較」/ 比較法学. 30(1) [1996]

清水弘司「日本・ノルウェー・中国の家族」/ 青少年問題. 43(2) [1996.02]

羅東耀「中国の近代化と血縁集団について：宗族の復活を中心に」/ サピエンチア.（通号 30）
[1996.02]

木下英司「中国家族研究の新たな視点のために：山東2農村調査からの提言」（シンポジウム
「主観的家族像」をめぐる）/ 家族研究年報.（通号 21）[1996.03]

張凡・浅野仁「中国における老人世帯の生活課題と扶養者世代への福祉援助：日本との比較」
/ 関西学院大学社会学部紀要.（通号 74）[1996.03]

加藤美穂子「中国現代家族法下における海南・黎族 家族慣習の存続と変容(その1)(2)」/ 戸
籍時報.（通号 468）[1996.12]

1997

池岡義孝「現代中国都市住民の家族認識の構造」/ 家族研究年報.（通号 22）[1997]

上野和男「中国西南部における父子連名制と家族組織：貴州省苗族の二村落の事例を中心
として」/ 国立歴史民俗博物館研究報告.（通号 70）[1997.01]

張凡・浅野仁「中国における老人の世代間扶養の状況と意識に関する調査(1)」/ 関西学
院大学社会学部紀要.（通号 76）[1997.03]

陳宇澄「中国の家族法と戸籍制度：非婚生子法を契機として」/ 私法.（通号59）[1997.04]

加藤美穂子「中国の協議離婚制度事情」/ 白鷗法学.（通号 9）[1997.10]

東美晴「解放前中国江南農村におけるジェンダーの研究：婚姻と出産にみる女性の文化、
社会的位置づけ」/ 神戸：甲南大学，1997.10

1998

飯田哲也「中国の家族社会学の新しい動向」/ 家族社会学研究.（通号 10-2）[1998]

稲村哲也「中国農村における家族・宗族及びその変容：湖北省、山東省、内蒙古自治区の
事例から」/ 愛知県立大学文学部論集. 日本文化学科編.（通号 47）[1998]

桂世勲（路玉昌訳）「中国の一子家庭における老人介護の問題と対策」 / 国際社会学研究所研究紀要. (通号 6) [1998]

宋長軍「中国の平等権：夫婦別姓について」 / 関東学院法学. 7(2) [1998.01]

馬憶南（国谷知史・岡綾子訳）「中国婚姻家族法の改革：考察と構想」 / 法政理. 30(3) [1998.03]

庚欣「中国社会における家庭とその近代における変遷」（東アジアの人と社会：「家族」から探るその価値観）：（東アジア各国の家族の諸相） / NIRA政策研究. 11(8) [1998.08]

1999

許敏「中国における家庭環境の変容と両親の教育期待の形成：大連市での質問紙調査に基づいて」 / 東京大学大学院教育学研究科紀要. (通号 39) [1999]

林明鮮「計画経済時代における中国の離婚：1950年から1978年まで」 / 名古屋大学社会学論集. (20) [1999]

鈴木未来「現代中国における家族社会学の展開と課題」 / 立命館産業社会論集. 34(4) (通号 99) [1999.03]

鈴木未来「改革開放以降の中国における家族問題」 / 立命館産業社会論集. 35(2) (通号 101) [1999.09]

根笈美代子・王雪松「中国の家族問題とジェンダー」 / 大分大学教育福祉科学部研究紀要. 21(2) [1999.10]

蕭紅燕「婚姻規制と規範の逸脱：中国四川農村の事例から」 / 高知論叢. (通号 65・66) [1999.11]

牛黎涛「中国における家族研究の回顧と展望」 / 社会学論叢. (通号 136) [1999.12]

2000

石井孝子「中国の人口抑制政策：小家族の実現と計画出産」 / 東京家政学院大学紀要人文・社会科学系. (40) [2000]

王躍生（藺葵訳）「18世紀中後期における中国の家族構成」 / 社会分析. (通号 28) [2000]

米村昭二・谷田恵美子「中国における老人扶養の比較分析：内モンゴル伊克昭盟と広東省広州市の場合」 / 国際社会学研究所研究紀要. (通号 8) [2000]

楊春華「中国の「親子関係」に関する一考察：一人っ子家庭と非一人っ子家庭の地域別比較を中心に」 / 家庭教育研究所紀要. (22) [2000]

羅潔「土家(トウチャ)族の婚姻慣習の変容：中国湖南省龍山県苗児灘鎮苗星村の調査に基づいて」 / ヒューマンサイエンスリサーチ. 9 [2000]

熊田伸子「各国における高齢者福祉と家族の現状(1)東北アジア，主として韓国・中国について」 / 紀要(郡山女子大学). (通号 36) [2000.03]

夏雨「中国における涉外婚姻法に関する一考察(中)」 / 戸籍時報. (通号 516) [2000.0]

馬利中「調査・研究中国における家族の変化と人口高齢化」 / 保健の科学. 42(7) [2000.07]

江振昌「中国の省を超える結婚ブーム：‘外来妹’現象」（視点 現代中国の社会問題）/
問題と研究. 30(2) (通号 350) [2000.11]

2001

矢野裕子・施文欣・服部範子「中国と日本における家庭教育の比較研究」/ 家族関係学. (20)
[2001]

溝口由己「中国都市部世帯での夫妻間家事分担と家計管理」/ 家計経済研究. (通号 50) [2001.
春]

呉魯平（黄當時訳）「現代中国農村青年の婚姻、家庭と性的状況の社会学的研究」/ 仏教大
学総合研究所紀要. (8) [2001.3]

朴成日「近代中国における離婚制度と離婚紛争処理の実態(2・完)離婚紛争をめぐる婚姻法
の理念とその展開に関する一考察」/ 法学論叢. 149(3) [2001.6]

鈴木未来「現代中国における家族問題の一考察:中国瀋陽市農村部の家族生活調査をもとに」
/ 日中社会学研究. (9) [2001.8]

鎌田文彦「中国：婚姻法の改正」/ 外国の立法. (210) [2001.10]

鈴木賢・廣瀬真弓「中国における家族の変容と法の対応：2001年婚姻法改正をめぐって」/
ジュリスト. (1213) [2001.12.1]

秦兆雄「中国湖北省農村家族の変化過程」/ 神戸外大論叢. 52(7) (通号 307) [2001.12]

2002

小林義廣「日本における中国の家族・宗族研究の現状と課題」/ 東海大学紀要. 文学部.
78[2002]

陳鳳「中国における改革・開放後の婚姻観の変化とその社会・経済的要因:山西省のある‘婚
姻紹介所’の記録を手がかりに」/ 人間文化. (通号 16) [2002]

鄭楊「中国都市部における子どもの社会化に関する一考察:家族・親族のネットワークと子
どもの第一次社会化」/ 関西教育学会研究紀要. (2) [2002]

何燕侠「中国における離婚法と女性:女性の特別保護を中心に」(特集:ジェンダーと健康)/
アジア女性研究. (11) [2002.3]

高橋強「新‘中国婚姻法’の離婚制度に関する一考察」/ 創大中国論集. (5) [2002.3]

張燕妹「中国における高齢者の扶養に関する考察:北京市の老人ホームの実態調査を通じて」
/ 社会学論叢. (143) [2002.3]

西村峯裕「中国婚姻法改正の論点」/ 産大法学. 36(1) (通号 122) [2002.7]

2003

耿碩宇「中国における親族呼称と親族観念:河南地方の農村を中心とした調査記録」(社会
科学特集)/ 甲南大学紀要. 文学編. (通号 131) [2003年度]

鄭楊「中国都市部の親族ネットワークと国家政策:3都市における育児の実態調査から」/ 家
族社会学研究. 14(2) [2003]

服部範子・宮坂靖子「中国・新疆ウイグル族の家庭生活とジェンダー：平成13(2001)年度
南疆フィールド調査」/ 兵庫教育大学研究紀要. 第3分冊, 自然系教育, 生活・健康系
教育, 総合学習系教育. 23 [2003]

篠崎正美「調査研究シリーズ(58)現代中国の離婚の実態：深センからの接近」 /
海外事情研究. 30(2) (通号 60) [2003.2]

華陽「福祉の視点からの中国の母子保健法の検討」/ 日本福祉大学大学院社会福祉学研究科
研究論集. (16) [2003.3]

野村鮎子「ジェンダーからみた中国の‘家’と‘女’」 / 研究代表者 (科学研究費補助金
<基盤研究(C)(1)>研究成果報告書 ; 平成13年度-平成14年度)

加藤美穂子「中国修正婚姻法の現状と課題」/ 戸籍時報. (562) (特別増刊) [2003.11]

2004

袁藝「中国における涉外家事紛争の諸問題」/ 早稲田大学大学院法研論集. (109) [2004]

大和三重「中国における高齢者介護のゆくえ：蘇州市の事例から」/ 関西学院大学社会学部
紀要. (97) [2004]

白水紀子「中国における「近代家族」の形成：女性の国民化と二重役割の歴史」/ 横浜国立
大学教育人間科学部紀要. 2, 人文科学. 6 [2004.2]

石井奈緒「中国漢民族社会における家族、宗族とreproductionの文化的意味づけとその変化」
/ 活水論文集. 人間関係学科編. 47 [2004.3]

宮坂靖子・服部範子「中国・新疆ウイグル自治区におけるウイグル族の家族・世帯とライフ
コース：イーニン市におけるケーススタディ」/ 家政学研究. 50(2) (通号 100) [2004.3]

早瀬保子「中国の婚姻法と配偶関係構造の変化」 (特集 中国の2000年人口センサス結果) /
統計. 55(5) [2004.5]

鄭楊「中国都市部における家族の学歴追求と子どもの社会化：2都市の現地調査を手がかり
に」/ 国際教育. (10) [2004.11]